

令和 7 年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより

11 月



木々の葉が舞い落ち、秋の深まりを感じる季節となりました。空気は澄み渡り、朝夕の冷え込みに冬の気配が感じられます。日中のやわらかな日差しの中では、子どもたちの元気な声が響き、季節の移ろいの中にも変わらぬ活力を感じます。

11 月は、一年のまとめに向けて心と体を整える時期です。学習や行事、日々の生活の中で、それぞれができることを少しずつ増やしながら、自信を深めていく姿が見られます。寒さに負けず、仲間と関わりながら目標に向かって取り組むことで、心のあたたかさも育まれていくことでしょう。

今年も残すところわずか。子どもたちが日々の成長を感じながら、充実した毎日を過ごせるよう、引き続き見守っていききたいと思います。

TOPICS 年長期以降の読み方・書き方の育ち ～弱視の子どもの学びを支える環境と活動～

【読みの発達と支援の方向性】

年長期以降の子どもたちは、これまでに培った音や文字への関心をもとに、自分で読む力を伸ばしていく段階にあります。弱視の子どもにとっては、視覚的に見やすい環境づくりと、音声を組み合わせた指導が効果的です。



○ 特殊音(拗音・促音など)の習得支援

まずは、文字の形や配置を明確にし、音と文字の対応を整理します。拗音や促音、拗濁音、拗促音などの特殊音を学ぶ際には、拗音部分を色分けしたカードや、マス目を分けたプリントを使って構成の違いを強調します。「てい」「っしゅ」などをテンポよく声に出して読むことで、音のまとまりを覚えていきます

○ 逐次読みからの脱出に向けて

一文字ずつ音にして読む“逐次読み”から脱出し、語や文のまとまりを意識して読むことが、この時期の大きなねらいです。初期の段階では、短い文を大人と一緒に声に出す「リズム読み」で区切りを意識しますが、次の段階では**「読める文字を心の中で読み、意味のまとまりごとに声を出す」**練習へと進みます。

たとえば、「りんごをたべました」という文を読むとき、最初のうちは「り・ん・ご・を…」と逐次的に音にします。それを「りんごを」までを心の中でまとめて読み、単語として理解できた、というところで声に出すよう促します。この“心の中で読む”経験を重ねることで、視覚的な情報処理がまとまりで行えるようになり、文の意味を追いやすくなります。

活動としては、①短文を提示して「どこまでをまとめて読めるか」を一緒に確認する、②大人が指で区切りを示しながら児童が黙読→音読を交互に行う、③黙読で知っている言葉を見つけてから音読をする。といったステップで学習をします。こうした体験を通して、“文字を読む”段階から“ことばを読む”段階へと移行できるよう支援します。書見台を使って姿勢と視距離を安定させ、行を見失わない環境を整えることも大切です。

【書きの発達と支援の方向性】

書く活動では、形を整えるよりも「音と動きを結び付けて書く経験」を重ねることを大切にします。弱視の子どもにとって書字は、目と手の協応を要する活動であり、書き順の理解が文字の構造を捉える手掛かりになります。

○ 書き順の習得と誤学習の防止

最初の学習段階では、書き順を誤ったまま繰り返すことがないように、大人の支援のもとで正しい動きを確認しながら行うことが大切です。書き順は運動の手続き記憶として定着するため、一度誤って覚えると修正に時間がかかり、形の理解や漢字学習にも影響します。単なる作法ではなく、文字の意味や構造を理解する「道筋」として捉えたいところです。

○ 目的をもった書字活動へ

太い線を指でなぞる、点線の上をゆっくりなぞって書き順を意識する、書いた文字をタブレットで拡大して確認するなど、段階的な活動を積み重ねます。子どもが書いている文字に合わせて「上からまっすぐ」「次は右へ」などと声を添えると、動きのイメージが伝わりやすくなります。さらに、名前カードやカレンダーづくり、手紙ごっこなど、目的をもった書字活動を通して「伝えるために書く」経験を重ねます。

読み書きの力は、音・形・意味・動きが結び付くことで深まります。これからも、一人ひとりの見え方やペースに合わせながら、楽しさの中で力を伸ばしていけるよう支援していきましょう。

◆ コラム: 誤った書き順の繰り返しは避けたい理由

1. 誤った動作の自動化

書き順は「手の動き」として記憶されるため、一度誤って覚えると、正しい順に直すのが難しくなります。

2. 訂正に時間がかかる

誤った書き順を体に染み込ませたまま繰り返すと、再学習の際に古い動きを上書きする必要があるため、習得に時間がかかります。

3. 文字の構造理解に影響する

正しい書き順には、線の重なり方や空間の秩序など、形を理解するための「意味」があります。順序が乱れると、偏や傍の関係など漢字学習にも影響します。

したがって、書き順の学習は“回数より正確さ”を重視し、声掛けや視覚的な手掛かりを用いて丁寧に確認しながら進めることが大切です。

今後の予定

○ 高等部普通科体験入学

令和 7 年 11 月 12 日(水) 8:40～12:40

○ 保護者交流会

令和 7 年 12 月 1 日(月) 10:00～12:00



